

番号	22	名称	高畠宅	
指定日	平成 15 年 6 月 9 日		所在地	神田駿河台四丁目 2 番地 9
設計者	不詳		竣工	昭和初期 (1930 頃)



### 歴史・文化的特徴

関東大震災の復興期の昭和初期に神田旅籠町（現在の外神田一丁目 5）にあった伊勢丹の役員の屋敷としてつくられた。

江戸時代、駿河台は旗本クラスの屋敷地であった。明治期には実業家の邸宅や病院、学校などが作られた。関東大震災後、駿河台は市内で初めて区画整理が行われた。

当時作られた御屋敷町の面影を残す貴重な建物である。

### 意匠・構造の特徴

近代和風建築。増改築はほとんどなく、原型をよく留めている。

屋根は日本瓦葺き、銅板葺き、外壁は板張りの比較的大きな住宅である。部屋数は 1, 2 階合わせて 12 室もある。2 階東側にはベランダも作られている。

敷地をぐるりと囲む塀は、石垣の上に板と漆喰塗りの壁をもち、瓦は一文字葺きで、一枚板でつくられた門戸の構えも重厚である。

### 周辺景観との関係

周辺には重要文化財のニコライ堂のような歴史ある建物があり、高層ビルが多い駿河台にあって、都会のオアシス空間を形成していた。近年建替えや再開発によって景観が一変し、高畠宅は以前のたたずまいを残す貴重な建物となった。

幽霊坂から淡路公園に向かう角地に立地しており、敷地をぐるりと囲んだ石垣と塀がアイストップとなって目を引く。